

## 第 23 回 東京都公金管理アドバイザー会議 議事要旨

日 時	令和 6 年 3 月 22 日（金）、3 月 25 日（月）、3 月 26 日（火）
方 法	持ち回り開催
出席者	委員）渥美委員、今井委員、内山委員、根本委員 計 4 名 事務局）池永公金管理課長、宮良資金運用担当課長、春日井統括課長代理（企画調査総括担当）、松原課長代理（運用管理担当）、山本主任、鈴木主任 計 6 名
欠席者	なし
議 題	令和 6 年度公金管理計画（案）について
要 旨	<p>（1）議題「令和 6 年度公金管理計画（案）について」</p> <p>事務局 公金管理を取り巻く環境認識として、「当面、緩和的な金融環境が継続する」との日銀の考えを踏まえると、国内金利の大幅な上昇は見込めず、公金の運用には難しい状況が継続すること、また、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など海外景気の下振れが金融機関等の経営に与える影響について注視が必要であること、加えてビジネスを取り巻く環境や社会情勢等についても精緻な分析・検証が必要であることなどについて説明。</p> <p>これらの環境認識のもと、迅速かつ的確なリスク対応を行いながら、安全性を最重要視し、流動性を十分に確保した上で、柔軟かつ効率的な保管・運用を目指すことについて、また、この考え方を踏まえた運用方法等について説明。</p> <p>委員 経済動向や金融環境についての認識、また、それを踏まえた公金管理計画については、妥当なものと考えている。</p> <p>委員 今後金利が動いてくることも想定して、預金先等の資金ニーズの把握を含め、対応について備えておくのが良いと考える。</p> <p>委員 マイナス金利の解除、YCC*の撤廃に伴い、金利のある世界となっている。必要な流動性預金以外は普通預金よりも定期性預金を選択することや、債券のウェイトを増やすことは良いことだと考える。</p> <p style="padding-left: 2em;">*YCC：イールドカーブ・コントロール。日本銀行が金融緩和強化のために導入した、適切な水準に長短金利を操作していく枠組み。</p> <p>委員 銀行にとっては、預金を獲得することのメリットが向上すると思うので、信用リスクに留意しつつ、預金先の多様化を進めてはどうかと考える。</p> <p>委員 これまで預金受入に対して消極的だった金融機関も少し積極的な姿勢が出始めるようになるのではないかと考える。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>